

Title	東京歯科大学口腔がんセンターにおける患者動向 - 10年間の臨床的検討 -
Author(s)	関川, 翔一; 小坂井, 絢子; 齋藤, 寛一; 大金, 覚; 高野, 正行; 野村, 武史; 片倉, 朗; 柴原, 孝彦; 高野, 伸夫
Journal	歯科学報, 117(3): 263-263
URL	http://hdl.handle.net/10130/4287
Right	
Description	

No.17：東京歯科大学口腔がんセンターにおける患者動向 - 10年間の臨床的検討 -

関川翔一¹⁾, 小坂井絢子¹⁾, 齋藤寛一²⁾, 大金 覚²⁾, 高野正行¹⁾²⁾, 野村武史²⁾³⁾, 片倉 朗²⁾⁴⁾,
 柴原孝彦¹⁾²⁾, 高野伸夫²⁾ (東歯大・口腔顎顔面外科)¹⁾ (東歯大・口腔がんセンター)²⁾
 (東歯大・オーラルメディシン口外)³⁾ (東歯大・口腔病態外科)⁴⁾

目的：東京歯科大学口腔がんセンター (Oral Cancer Center；以下 OCC) は、平成18年4月の開設時より、東京歯科大学3病院の口腔がん治療における拠点施設として、医科各科と連携しながら、口腔がん全般に対する治療に加えて、顎口腔機能の再建、摂食・嚥下機能訓練および顎補綴等の術後の機能回復に至るまでの包括的な医療を提供している。今回、我々はさらなる高い水準でのがん医療提供のため、過去10年間における患者動向を調査・検討したので報告する。

方法：平成19年4月～平成29年3月の10年間に、OCCを受診した口腔がん患者を対象とした。患者数および手術件数の他、診療録から性別、年齢、病期、原発部位、治療法等の臨床情報を抽出し、検討した。

結果および考察：調査期間中の初診患者数は760例であり、年々増加傾向であった。受診経路としては、市川総合病院口腔外科からの移行が全体の65%を占めており、水道橋病院が18%、千葉病院が15%、その他が2%であり、水道橋病院および千葉病院からの移行症例も年々増加傾向であった。このうち一次症例は555例であり、全体の73%を占めてい

た。一次症例の原発部位については、いずれの年度においても舌癌が最も多かった。手術件数についても、患者数の増加とともに増加傾向であった。

口腔がんはがん全体の1～2%を占める比較的稀ながんであるが、本邦において患者数は増加傾向にある。口腔がんは発生部位から他部位のがんと比較し直視直達容易であり、さまざまな診断ツールの開発により早期発見が進んでいるものの、自覚症状に乏しい場合などには放置されることもあり、いまだ進行例も多く経験するのが現状である。OCCにおいては特に他施設では治療困難な進行例を多く受け入れている現状があり、進行癌に対する再建手術が増加傾向であった。また、開設当初と比較して水道橋病院および千葉病院からの紹介患者数が増加しており、口腔がんセンターが3病院におけるがん診療の拠点施設として定着してきた結果と思われる。OCCでは、超選択的動注化学療法や新規分子標的治療薬の導入など、常に新たな治療選択肢を模索しながら治療にあたっている。今後も高い水準でのがん医療を提供すべく、医科各科と連携しながら集学的治療に努めていきたい。